

平成21年度 地方の元気再生事業 事業実施調査書

(1) 取組名	ブロードバンド徹底活用1000人塾 -地域賑わいづくり人材養成プロジェクト-		
(2) 実施団体名	徳島大学	(3) 対象地域	徳島市
(4) 代表団体名		(5) 推薦団体名	徳島県

(6)実施した取組の内容	取組①	人づくりプログラムの実施	
	実施主体	主担当: 徳島大学、徳島インターネット市民塾 当初提案により予定していた計画	
	実施内容、実施結果	徳島大学が核となり、大学施設、地元商店街、公共施設、eラーニングを活用し、忙しい店主等でも参加できる様式で、以下3タイプの人材を養成する講座を開設する。 ① コーディネータ人材 : 地域一体化した賑わいをつくる情報戦略的な視点を持ち、人に説明でき、方向性のある集まりを作ることができるリーダー人材 ② プレーヤー人材 : リーダーを支え、プロジェクトを完結させる実行力をもった人材 ③ ICTスキル人材 : ICTシステムを活用して情報発信し、人と人をつないでいくノウハウを有した人材 養成講座では、外部から講師を招き、ICTの利活用や地域活性化に関する講義・演習を行う。カリキュラム概要は以下のとおりである。 ・ ケーススタディ講座 : 全国成功事例/失敗体験の紹介を行う。地方の元気再生事業優秀事例リーダー、地域活性化伝道師、地域情報化アドバイザーを招き成功例をケーススタディする。12名(2名x6回、各1時間の講演+質疑応答)、毎月第4週の火曜日 ・ まちづくりと地域マネジメント講座 : 賑わい・人の輪形成、ビジネスモデル創出の学習。地元での地域資源発掘やビジネスモデル開発を学び、ICT活用型の地域マネジメントシステムの開発に参加する。2時間x3回。7月第1週~3週の火曜日 ・ 地域魅力開発と情報戦略講座 : 情報発信、ネットショップ・オークションなどの基礎学習。Web活用やネット販売等について学び、情報発信と特色作り(差別化)を実習する。2時間x3回、8月第1週~3週の火曜日	実際の取組内容及びその結果 ・ 実施内容: 人づくりプログラム ・ 実施時期 : 平成21年9月~平成22年2月(ケーススタディ講座、養成講座、店舗ブログ講座) ・ 実施場所 : 徳島大学しんまちオフィス、徳島大学ICTスタジオ、出前市町村特設会場(上勝町徳島大学上勝学舎、阿南市情報文化センター、那賀町徳島大学再生塾、美馬市役所穴吹庁舎公民館、美波町役場日和佐公民館、つるぎ町就業改善センター、上板町商工会館) 取り組みの結果 : 1000人の受講・養成(02/03時点で902人、240ブログ)を達成し、徳島市中心市街地を中心とした商店主、地域活性化活動者のブロードバンド活用、地域情報化、情報発信の意識、技能水準、ビジネス戦略、そして店舗ブログによる実際の情報発信活動を全体的に向上させた。また、このなかから、地域をリードする人材(コーディネータ人材)、店舗ブロガー育成に奔走する人(プレーヤー人材)、優良ブログを作る人(スキル人材)等が誕生し、徳島の元気再生を促進する状況が強化された。産学官民連携もより明確になり、本事業の成果を継承し地域持続する体制ができあがった。なお、本事業において開設されたブログのなかから2件がとくしまWeb大賞(店舗ブログ部門)にノミネートされ、結果が3月初旬に発表されることになっている。実施した講座等の詳細は以下の通りである。 ● ケーススタディ講座 ■開講式(9/12)、とくしまWebフェスタ(11/3)、閉講式(2/18)の3回にわけて開催した。全国で実績をあげている実践者8名を講師として招聘し、実施した。受講者は306名、169名の合計475名。盛況、好評であった。(ただし閉講式は、2/18開催予定。さらに合計人数は増える)。 ● 養成講座 ※全講座1回2時間 ■ まちづくりと地域マネジメント講座 12/4と12/11の2回開催し、受講者は15名と11名の合計26名であった。 ■ 地域魅力開発と情報戦略講座 11/19と11/20の2回開催し、13名と12名の合計25名の参加があった。 ■ ブロードバンドユビキタス活用講座 、10/17、10/24、10/31の3回開催し、8名、8名、11名の参加があった。 ■ コンテンツ制作講座 9/25、10/2、10/9の3回開催し、21名、19名、15名の合計55名の参加があった。

(6)実施した取組の内容	実施内容、実施結果	<p>●ブロードバンド・ユビキタス活用講座:ブロードバンド、まちなかケータイ活用の基礎学習。ブロードバンド徹底活用術、ユビキタス利用の基礎、地域個人商店・中小企業のための携帯端末活用について学ぶ。2時間 x 3回、9月第1週～3週の火曜日</p> <p>●コンテンツ制作講座:Webコンテンツ、デジタルサイネージの技能講習。ICTスタジオで地域住民の視点でのコンテンツ制作、地域魅力開発について学ぶ。(3時間 x 3回)、10月第1週～3週の火曜日</p> <p>●500店舗ブログ化講習会:ブログ店舗の開設と更新の方法に関して学習する。500店舗のブログ化を目標として、利用者の都合にあわせて随時開催。ICTスタジオでの定例講習会と出張講習会の2方式で実施する(10組x2名(20名)・3時間 x 50回)。</p> <p>eラーニングコンテンツの制作と配信はNPO法人徳島インターネット市民塾が担当する。</p>	<p>●店舗ブログ講座</p> <table border="0"> <tr><td>9月</td><td>6回</td><td>(2時間/回)</td></tr> <tr><td>10月</td><td>23回</td><td>(2時間/回)</td></tr> <tr><td>11月</td><td>22回</td><td>(2時間/回)</td></tr> <tr><td>12月</td><td>16回</td><td>(2時間/回)</td></tr> <tr><td>1月</td><td>21回</td><td>(2時間/回)</td></tr> <tr><td>2月</td><td>9回</td><td>(2時間/回)</td></tr> </table> <p>合計 97回(2時間/回)</p> <p>■時間数194時間</p> <p>■延べ人数301人</p> <p>●出前講座(出前講座の講義時間は2～4時間で受講生の習熟度により、柔軟に対応を図った。)</p> <p>阿南:2回 上板:3回 つるぎ:1回 美馬:1回 美波:1回 那賀:1回 上勝:1回</p> <p>徳島市:講演形式で2月15日実施予定(参加予定者数200～300人)</p> <p>■延べ人数84人</p>	9月	6回	(2時間/回)	10月	23回	(2時間/回)	11月	22回	(2時間/回)	12月	16回	(2時間/回)	1月	21回	(2時間/回)	2月	9回	(2時間/回)
	9月	6回	(2時間/回)																		
	10月	23回	(2時間/回)																		
11月	22回	(2時間/回)																			
12月	16回	(2時間/回)																			
1月	21回	(2時間/回)																			
2月	9回	(2時間/回)																			
取組②	賑わい創出ICTシステムの構築																				
実施主体	主担当:e-とくしま推進財団、株式会社アイ・ディー・エス																				
	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果																			

<p>実施内容、 実施結果</p>	<p>地域プロデュース型の情報受発信基盤として、常時接続でWeb等にユビキタスなリンクが可能なWi-Fi（ワイファイ）アーケード（無線LANフリースポット）を実験構築する。Wi-Fi（ワイファイ）アーケードの構築にあたっては、地元商店街、徳島商工会議所との連携のもと、財団法人e-とくしま推進財団が担当する。</p> <p>個人商店・中小企業等の店舗ブログ、ブログナビ、ブログメルマガ、とくしまポータル、住民SNS、とくしまWeb大賞、地域NPO活動等との組み合わせで、地域情報の生成、収集・集積を活性化させ、効果について検証する。</p> <p>そのため誰でもどこでも参加・利用可能で、賑わい創出機能、住民交流機能をもったWebシステムを実験開発する。なお、プログラミングは株式会社アイ・ディー・エスに委託する。</p>	<p>・実施内容:賑わい創出ICTシステムの構築</p> <p>・実施時期:平成21年9月～平成22年2月</p> <p>・実施場所:徳島市中心市街地商店街（利活用範囲はアーケード～全国に広がる）</p> <p>・取り組みの結果: 常時接続でWebサイト、ブログ等へのユビキタスなアクセスが可能なWi-Fi（ワイファイ）アーケード（無線LANフリースポット）を東新町、籠屋町、銀座各商店街を途切れなく連続的にカバーする形で実験構築した。Wi-Fi（ワイファイ）アーケードの構築にあたっては、地元商店街組合、アーケード内各商店、地元企業（NTT西日本徳島支店）、財団法人e-とくしま推進財団が連携し、地域調整と電波状況調査を行った。Wi-Fiアーケードに関する広報・啓発活動は、利用エリアについては、「Wi-Fiアーケード利用マップ」をWebサイトに掲載した。利活用法の基本については、養成講座「ブロードバンドユビキタス活用講座」で紹介し演習した。またその受講者らを中心に、各種ブログ等を通じて、広報・啓発の範囲を広げた。</p> <p>また、Wi-Fiアーケードと連動可能なWeb集客・販売システム「あわーくす」を開発した。「あわーくす」はネットビジネスを可能にする地域連携と情報発信促進システムであり、①賞品ゲットQRコードポイントラリー、②とくしま掘り出し商品市、③とくしまお宝1円からオークション（在庫一掃C商品市）の機能を実装している。プログラミングは株式会社アイ・ディー・エスに委託した。また、スマートフォンによる「くじ引き」アプリも開発した。</p> <p>店舗ポータルシステムとしては、「元気とくしま商店街」を開発し、実験運用した。「元気とくしま商店街」は商店主や地域活動者等が開設した店舗ブログを登録すると、開店情報、新着記事、新着商品を消費者、一般市民、全国にリアルタイムで紹介・広報する機能を持つ。アクセスランキングやクーポンなども完全自動でリストされ、地域が一丸となってビジネスや地域おこし活動している姿をわかりやすく描き出し、情報発信・収集を支援・促進することに効果をあげた。その結果参加を申し出る商店街が増加している。</p>
------------------------------	---	---

	取組③	ビジネスモデル構築	
	実施主体	主担当:e-とくしま推進財団	
(6)実施した取組の内容	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		<p>財団法人e-とくしま推進財団、徳島県などがとくしまWeb大賞などのイベントと連携して企画・開催する予定の地域のイベント「とくしまWebフェスティバル（仮称）」に、ブロードバンド徹底活用1000人塾として共催参加し、ビジネスモデル構築を行い、地域魅力（商品開発等）とビジネスモデル開発にも取り組む。</p> <p>実証実験における新町Wi-Fiアーケードを活用した賑わい創出事業としては以下のものを計画・実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンテンツスタジオからのリアルタイムなWeb情報発信 ・C級商品（在庫限りで売り尽くしたい商品）の即売 ・QRコードによるスタンプラリー ・デジタルサイネージによる「駅からの誘導」 ・PDAとスカイプによる無料通話（Wi-Fiもしもし通話）環境の実現 ・店主等と顧客、来訪者等との応答の可視化と制御による賑わい創出 ・Webベースの個人商店・中小企業販売のプロデュース機構 ・とくしま地域限定グッズの販売 	<p>・実施内容：ビジネスモデル構築</p> <p>・実施時期：平成21年11月～平成22年2月</p> <p>・実施場所：徳島市中心市街地商店街</p> <p>取り組みの結果： 本事業で実験構築したWi-Fiアーケードは、全国的にみて希少なものであり、徳島市中心市街地商店街の「地域魅力」を高める大きな材料となった。またこれを活用してあらたな店舗活動を行う商店も現れはじめ、店主への活力増強、新ビジネス創出にも大きな影響を与えることが判明した。このことから、本事業終了後のWi-Fiアーケードの取り扱いについて、地域持続するための体制を平成22年2月18日に立ち上げる予定である。</p> <p>本事業で実験構築したWeb型の集客・販売システム「あわーくす」については、Wi-Fiアーケードと連動可能なWeb集客・販売システムであり、①賞品ゲットQRコードポイントラリー、②とくしま掘り出し商品市、③とくしまお宝1円からオークション（在庫一掃C商品市）の機能を実装している。これらを店主や消費者へ広く紹介するため、また、地域連携型ビジネスモデルを提案し、性能や使い方を確認・体験するための実験実験として、平成21年11月3日に「とくしまWebフェスタ」を開催した。その結果、こうしたWebシステムの活用は、商店街の個店ビジネスを連携・連動し、真の意味で商店街機能を高める可能性が高いことが明らかとなり、大きな地域ビジネスをつくりうること、またデジタルサイネージなど時代感覚をもつ地域商店街づくりの基盤となることが確認できた。この資産を早期に次のステップにつなげることが重要ということも分った。これについても、地域持続を検討するための勉強会「とくしまプログ村」の構想が提案されている。</p>
(7)実施体制	平成21年度取組実施における体制・役割分担		当初計画からの変更点
	<p>地域の再生・活性化に関する課題解決に取り組み、あらゆる面で目に見える変化を起し、魅力・活力にあふれる徳島をつくる、という目標のもと、2007年4月、徳島大学地域創生センターを設置した。</p> <p>これまで、地域再生塾など各種プロジェクトにおいて、各地域に密着した取り組みを行ってきたところ、そのノウハウは、現在、賑わい創出における一つのパッケージとしてモデル（装置）化できるまでに至ったことから、（財）e-とくしま推進財団、徳島県、徳島商工会議所、徳島市中心部の地元商店街等と連携して、当該知識を地域に還元すべく事業にあたる。</p>		徳島商工会議所の本年度の参加は取りやめとなった。
(8)取組により得られた成果	○成果1→ 1,000人の受講をめざす。		
	H20		H21(当初予定していた目標)
	地域NP0連携で72名の人材（シニア情報生活アドバイザー）を養成済み		個人商店主、中小企業従事者などを主な対象とした人材養成塾を開設し、ブロードバンドの効果的活用により、資源の発掘/活用、賑わい創出の企画・ビジネスモデル化、チームワーク・合意形成できるリーダー人材を養成。ICTを基盤にした地域力の形成と向上を図る。
	H21(実際に得られた成果)		
<ul style="list-style-type: none"> ・現在も進行中であるが1000人以上の受講が達成できる見込みである。 ・ブログ等によるICT活用型の地域リーダーがあらたに30名誕生した。（商店街リーダー8名、店舗プログラマー10名、地域支援リーダー5名、全般応援リーダー7名） ・勉強会「とくしまプログ村」がたちあがり、コミュニティビジネスとしての自立化を検討している。 			

(8)取組により得られた成果	○成果2→	県下500店舗のブログを構築し、モール化する。		
		H20	H21(当初予定していた目標)	
		ポータルサイト(「とくなび」プロトタイプ)を開発済み	養成人材の活躍を支援するICTシステム(Wi-Fiアーケード、個人商店・中小企業ブログ、地域SNS、小売店プロデュースWeb)を構築する。その機能を使いこなし活性化するためのICTスキル養成、コンテンツ制作、個人商店・中小企業による500店舗ブログの構築を行う。	
		H21(実際に得られた成果)		
		<ul style="list-style-type: none"> ・店舗ブログ数500は難しいと思うが、300を目指して活動している。 ・店舗ブログモール「元気とくしま商店街」が構築され、運用中である。 ・店舗ブログモール活性化、Wi-Fiアーケードと連動した活用事業開発、効果分析を検討する組織の立ち上げを商店街リーダーを中心に検討中 		
		○その他の成果→	Webを含め、1日に10,000人の流れをめざす。	
		H20	H21(実際に得られた成果)	
		地域ICT未来フェスタで一部実験済み	賑わいの創出はできたが、予算の関係で正確な測定ができず、達成の確認はできなかった。	
(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点	<p>・人づくりプログラムの実施に関しては、熱心な参加があり、人材が育った。一方で、反省点としては、商店街の情報共有が営業的側面に偏りがちな傾向にあることも含め、本事業の広報活動・情報伝達の強化が今後の課題のひとつである。また、直接的な利益につながらない学習等に対する時間を割くことには理解が得られにくい傾向もあり、人材育成講座の内容説明や効果の例示に力を入れることが重要と思われた。さらに、個店の利益に加えて、商店街全体の利益向上に寄与する部分に関して理解を得る努力も必要と感じた。大学が核となった本事業活動、実行委員会、養成講座の場を活用した商店街活性化の議論等は忙しい店主等にとって貴重なものとなることは評価された。こうしたことから、情報共有、ネットワークの強化を課題にしなが、養成講座事業等を実施することが今後に求められるものとする。</p> <p>・賑わい創出ICTシステムの構築に関しては、地域活性化に有効なものが開発され、実験運用された。運用サイドからは、店主等の利活用レベルに応じたインターフェースの改修が必要な部分があった。消費者サイドからは、簡便で楽しく、安全・安心に買い物や地域イベント参加するための改良点が抽出された。これらについては、費用の問題を含めて今後を検討する。</p> <p>・ビジネスモデル構築については、ICTシステムを使った地域ビジネスモデルの構築とそれによる戦略的な地域事業展開がこれまでにない顧客・市場の開拓、商品の発掘・開発などが可能となることが判明し、元気な徳島づくりに実質的な効果をあげることが確認できた。今後の課題は、有効性、有効範囲を広げる改善を行い、商店の参加と活用範囲、地域の利用と利用範囲を拡大することである。</p>			

	当初提案に予定していた平成22年度以降の展開	今年度の取組状況を踏まえた平成22年度以降の活動の見込み
(10)平成22年度以降の活動の見込み	<p>平成22年4月～2月</p> <p>○ 本格導入に向けた具体的検討項目 ブロードバンド徹底活用3000人塾 賑わい創出ICTシステムの汎用化 恒常的運用モデル及びノウハウ検討 他地域への展開に向けた、関係者連携・協議 各地域でのデモ展開 事業化に向けた検討</p>	<p>地方の元気再生事業が21年度で打ち切られるとの連絡を受け、大幅な変更を余儀なくされているため、数値目標を下方修正しブロードバンド徹底活用1000人塾を地域持続させる。またその運営体制として、徳島大学地域創生センターの地域貢献活動、徳島市中心市街地商店街、出前講座を実施した県下各地の商工会・有志グループ、地域NPO、徳島県、徳島市などとの連携によるコミュニティビジネス「とくしまブログ村」を発足させる。とくしまブログ村の原型はすでに本事業の参加者を中心にできあがっており、これを拡大・発展させる形で事業化する。活動等の具体的内容は、地域活性化、産業振興、雇用創出のためのモデル創出と試行、Wi-Fiアーケードの安心・安全運用、活用事業の企画と実施、店舗ブログによる情報発信の強化と戦略化、地域ICTリテラシー支援の活動等を計画している。これらを円滑に実施するための予算確保として、地方の元気再生事業に代えて、平成21年度2次補正予算「ICTふるさと元気事業」への応募を検討している。</p>
	<p>平成23年～平成25年</p> <p>○ 本格的な事業展開 ブロードバンド徹底活用5000人塾 賑わい創出ICTシステムの高度化 事業化に向けた専門家へのヒアリング 事業者との協働</p>	<p>上記と同じ理由から、数値目標を下方修正し、ブロードバンド徹底活用3000人塾を実施することを計画している。賑わい創出ICTシステムの高度化については、(1)平成21年度事業で構築・運用中の「元気とくしま商店街」のポータル機能の強化、(2)同様に本年度事業にて構築した地域ネットビジネス支援システム(ポイントラリー、地域ネットオークション、在庫品一掃販売システム)「あわーくす」のインタフェース性能の向上、(3)ツイッター(マイクロブログ)やデジタルサイネージによる新しい情報発信、消費購買者と店主とのコミュニケーション、リアルタイムマーケティングの組み込みなどを設計・開発することを予定している。このための専門家からの意見聴取や事業化に向けてのヒアリングを行う。</p>